

3-9 房総半島南東沖の地震活動（1990年7月22日～26日）

On the Seismic Activity off Southeast Coast of the Boso-Peninsula
(July 22 - 26, 1990).

気象庁地震予知情報課

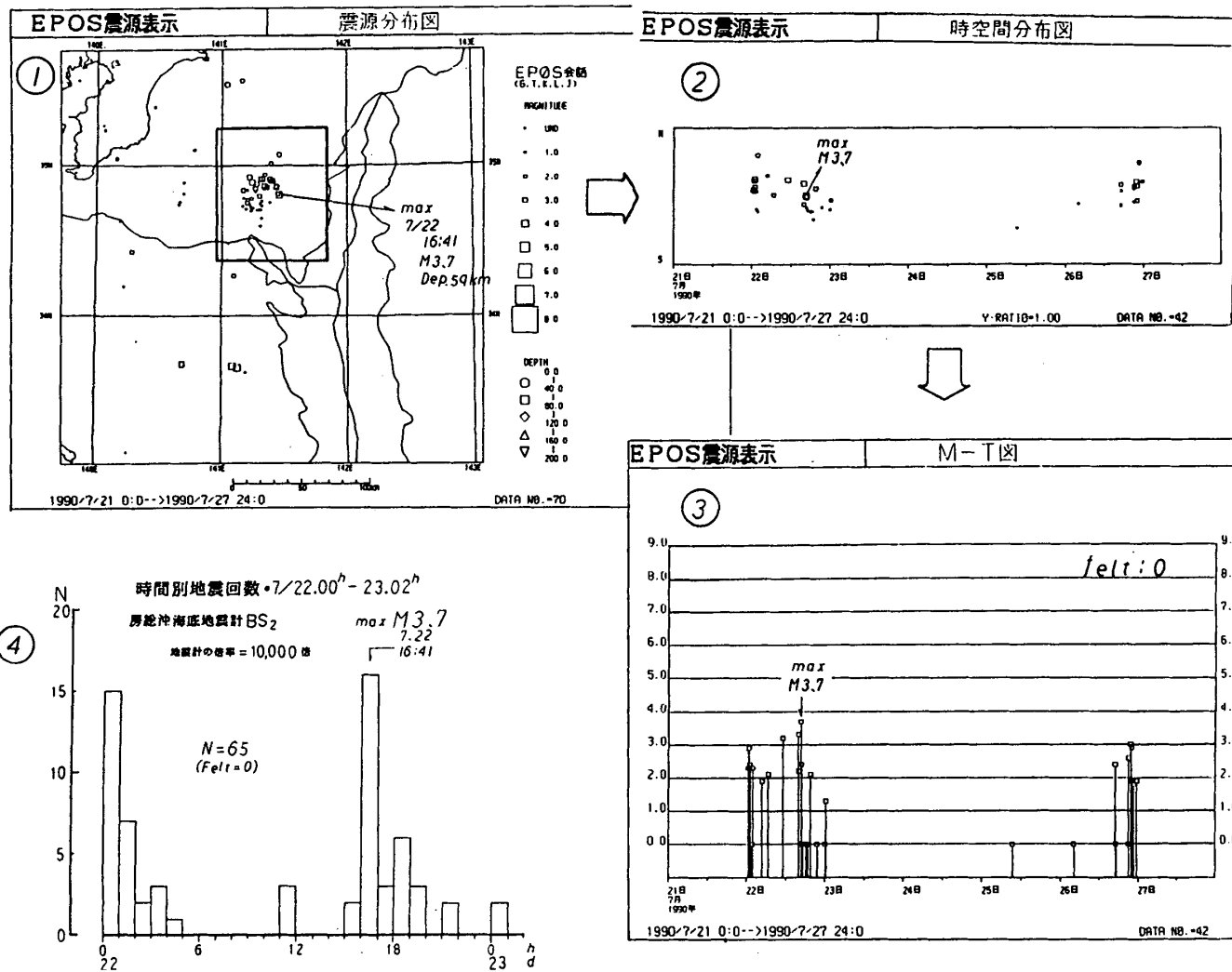
Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

1990年7月22日00時23分ころから、房総半島南東沖で群発地震活動が始まった。この活動はそれほど顕著なものではなく、23日01時ころまで続いて一段落。そして、25日から再び活動が始まったが、これは当初の場合に比べ、活動のレベルが低く、27日後半には終息した〔第1図〕。その後は静かな状態が続いている。この期間における最大地震は、7月22日に発生したM3.7*、震源決定された地震数は42個、有感となった地震はない。

今回の活動域は、房総沖海底地震計BS₁（先端点）の北東約15～55kmの範囲に発生した。第1図に房総沖海底地震計BS**（先端点から2番目）に記録された時間別地震回数を示してあるが、22日00時～23日02時の回数（当初1回目の活動）は65回で、これに対応する期間の震源決定地震数（28個）の2倍強となっている。

今回の活動域付近では、1926年以降これまでに、M5.5以上の地震が39個発生している。このうち最大のもは、1953年11月26日に発生したM7.4の地震で、これは震害（軽）を伴った。また、津波も発生したが、これによる被害は報告されていない〔第2図〕。1953年11～12月は活動が特に活発化した時期で目をひく。なお、前記M7.4の地震が発生したところでは、1989年11～12月に群発性の地震活動があったが、それほど顕著なものではなかった（最大地震M4.1）。

注：*は最終リストによる値であるが、その他の要素は、7月22日16時41分39.6秒、34° 48.0' N・141° 27.5' E、深さ59km。**の地震計倍率は10,000倍（1Hz）で、今回の活動域はこれから東北東約35～70kmの範囲に位置する。

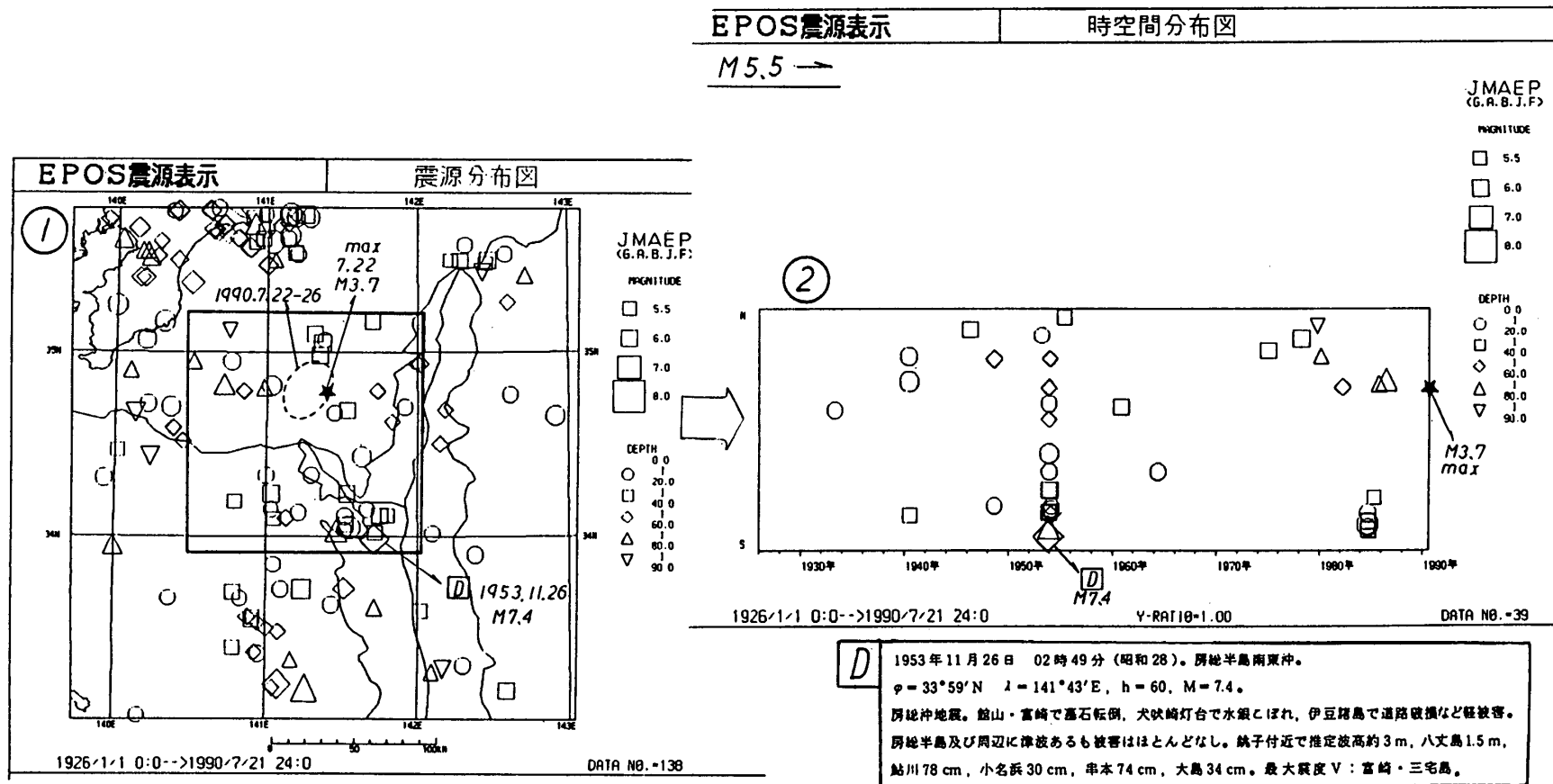


第1図 房総半島南東沖の地震活動 (1990年7月21日~7月27日)

①: 震央分布, ②: 時空間分布, ③: M-T図, ④: 時間別地震回数

Fig. 1 Seismic activity off southeast coast of the Boso-Peninsula (July 21 - 27, 1990).

①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot, ③: M-T diagram, ④: Hourly number of earthquakes.



第2図 房総半島南東沖の地震活動(1926年1月1日~1990年7月21日・M5.5以上)

①：震央分布，②：時空間分布

Fig. 2 Seismic activity off southeast coast of the Boso-Peninsula (January 1, 1926 – July 21, 1990·M ≥ 5.5).

①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot.